

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和8年2月24日
中国運輸局

評価対象事業名：地域公共交通利便増進事業（利便増進計画策定事業）

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針又は事業の今後の改善点	評価結果	
松江市公共交通利便増進市民会議	<p>松江市地域公共交通利便増進実施計画策定調査業務</p> <p>【事業内容】 (1) 公共交通ネットワークの再構築の方向性の整理 (2) 公共交通サービスの検討 ① 現況サービス及び利用状況の整理 ② 再編方針に基づくネットワークの再現及び利用予測 ③ 各公共交通の役割分担の方向性検討 (3) 支援策の検討 ① バス路線の再編 ② 運賃施策の検討 (4) 事業の効果 ⑤ プロジェクトチームとの協議 (6) 利便増進計画への記載事項の整理 (7) 報告書作成 (8) 打合せ協議</p> <p>【結果概要】 ・路線バスWG等で関係者からヒアリングを実施し、方向性を整理した。 ・GTFISや国土数値情報を用いて、GISデータを構築した。 ・路線バスを対象に、R84再編時の需給バランスを整理した。 ・再編路線を対象に路線図を作成した。 ・運賃改定にかかるゾーン設定、運賃設定の複数案に対する採算性を算出した。 ・定期券の利用者数、乗継割引の適用状況を整理した。 ・乗継割引の導入条件案に応じた採算状況を確認できる割引適用額を整理した。 ・定性的な効果を整理した。 ・PT会議、路線バスWGを開催し、議論を深めた。</p>	A	計画通り事業は適切に実施された。	<p>事業Ⅰ 幹線・支線の維持・確保に資する路線再編 ① 幹線・支線路線の再編/ハブ&スポーク型の機能充実 ② 等間隔ダイヤの導入に係る路線再編 ③ コミュニティバスの延伸 ④ コミュニティバスの需要に応じた運行形態の変更 ⑤ 交通結節点における乗り継ぎ環境の整備</p> <p>事業Ⅱ ① 市街地ゾーン均一運賃の導入 ② 等間隔ダイヤの導入及びダイヤ調整 ③ 路線バスにおける通学フリー共通定期券の導入・運用</p> <p>事業Ⅲ ① バス停上屋の機能向上</p>	<p>【評価できる点】 ・多様な主体と利用促進策について検討を進めた点は評価できる。 ・データを活用して検討を進めた点は評価できる。</p> <p>【期待する取組】 ・現在検討している自家用有償旅客運送(区域型)の導入にあたっては、地域の多様な主体との連携及び新たな担い手の創出により、持続可能な地域交通が導入されることを期待します。</p>
真庭市地域公共交通会議	<p>【事業内容】 ・計画の方向性、実施事業等の検討 ・事業実施に伴う影響、効果の検討 ・事業実施に伴う路線別の収支と公費負担額の予測 ・市民協働のあり方に関する検討 ・真庭市地域公共交通利便増進実施計画(案)の取りまとめ ・地域公共交通会議・分科会の開催</p> <p>【結果概要】 ・北房地域における実証運行の決定：交通空白地の解消を目指し、コミュニティバスからの転換や結節点設定等の協議を進めた結果、令和8年1月より北房地域にてオンデマンド交通の実証運行を開始する運びとなった。当該事業では、民間および地元交通事業者の連携のもと、既存のバス路線を「自家用有償旅客運送」が補完するハイブリッドな運行形態を採用。これにより、ドライバー不足への対応と新たな市民協働モデルの構築を図る。</p> <p>・持続可能な財政計画の策定：将来の人口動態や需要予測に基づき、路線転換後の公費負担額を精査した。その結果、現状の負担水準を維持しつつ、必要な交通網を維持・確保できる見通しを得た。</p> <p>・他地域への展開検討：同様に交通空白地である美甘・湯原地域においても課題解決に向けたヒアリングに着手した。今後は住民アンケート等を通じて移動ニーズや目的地を精査し、最適な運行スキームの検討を進める。</p>	A	交通事業者との個別協議を重ね、現場の課題や専門的な知見を計画に確実に反映させた。あわせて、まちづくり・福祉・観光・教育等の庁内関係部署とも横断的な協議を実施した。これにより、特定の分野にとどまらず、地域全体の課題解決と利便増進に資する検討がなされており、事業は適正に実施されたと認められる。	<p>【今後の方向性】 引き続き、事業者及び庁内関係部署と連携し、利便増進実施計画の策定に向けた具体的な協議を深化させる。特に、利用者利便の維持・確保と、市民参画(共助)の仕組みを活用したドライバー不足解消策について、持続可能なスキームの確立を目指し調査・検討を行う。</p> <p>【運行効率化に向けた取組に関する具体案】 ・交通空白地における運行形態の適正化(コミュニティバス枝線から区域運行への転換等) ・幹線路線とデマンド交通の役割分担の明確化(重複区間におけるダイヤ等の見直し) ・利用実態およびニーズに基づいたダイヤの最適化</p>	<p>【評価できる点】 ・関係者と協議し、ドライバー不足に対応しながら、最適な運行スキームの検討を進めた点は評価できる。</p> <p>【期待する取組】 ・オンデマンド交通の実証実験を踏まえて、幹線軸と地域内交通とのシームレスな乗り継ぎ環境が整備されることを期待する。</p>